

2019年7月17日（水）

2019年度 校内研究会



明石市立 江井島小学校

1. これまでの研究について

本校は2016年度から食育の研究を行ってきた。初年度は、研究テーマを「主体的・協働的に学び、自己を見つめる子ども～食の大切さを実感できる授業づくり～」と定め、よりよい食生活や自分自身の在り方、他の人とのつながりを考え、心も体も健康に過ごそうという児童を育むことを目指して研究を始めた。その後、2017年度には、研究内容を教科・領域と食育を一体的に学ぶ研究として発展させ、「地域の特色を生かした食育推進事業」の指定を受け、平成29年11月24日に研究発表会を行った。「教科・領域と食育とを一体的に学ぶ研究」においては、教科・領域で得た知識を用いて食に関する課題を主体的・協働的に解決していこうとする児童の生き生きした姿が見られ、学習内容に発展的な広がりや深まりが生まれた。このことから、「食」という全ての児童が親しみやすいテーマを取り入れたことで、各教科の習熟度では立ち位置の違う児童でも同じ土俵に立って主体的・協働的に学習に参加でき、結果として教科・領域の目標を達成できることが検証できたと言える。2018年度は兵庫教育大学の吉川芳則教授、あかし教育研修センター古川薫係長を講師に迎え、国語科を中心に「主体的対話的に深く学び、自己を見つめる子ども～ことばを大切にし、伝え合い、鍛え合う授業づくり～」をテーマにして研究に取り組み、「動きのある話し合い活動」と「認め合い高め合う学習集団作り」に重点をおいて研究を進めてきた。

2. 本校児童の実態について

江井島小学校の児童は素直で子どもらしい児童が多い。江井島には「子どもは地域の宝・江井島は一つ」という合言葉があり、地域に住む多くの方が児童を温かく見守って下さり、学校教育に協力的である。このような地域や家庭の力に支えられ、本校児童は落ち着いて学校生活を送っており、ルールを守ることや、友だちと仲良くすることに関して高い意識を持っている。その一方で登校しぶりや、不登校傾向の児童が増えているという実態があり、学校生活において全て児童の居場所を作ることが課題である。

昨年までの本校の研究においては「主体的・対話的に深く学び、自己を見つめる子ども」を目指し、課題を解決するために話し合い活動を取り入れてきた。その結果、話し合いの場において友だちと考えを伝え合ったり、比べ合ったりすることで新たな発見があったことを楽しいと感じる児童が増えており、このことは研究の成果であると言える。しかしながら、学習課題を自分事として受け止め、主体的に参加できる児童は限られ、とりわけ学力が低い児童や支援を要する児童は、多くの活動において活躍する機会が少なかった。

3. 研究テーマ設定の理由と研究仮説

今年度は明石市教育委員会の研究指定を受け生徒指導の研究を行う。昨年まで続けてきた主体的・対話的な児童と児童のかかわりを大切にしながら生徒指導の三機能（自己決定）（自己存在感）（共感的な人間関係）を教育活動全体で意識して研究を進めていく。

これまでの研究から本校児童には、授業に出席しているだけで主体的な参加者になっていない児童が多いという課題が見えてきた。また、困難にぶつかった時にすぐにあきらめて先に進めなくなってしまう児童や、学校に居場所を見いだせず不登校や登校しぶりを起こし、出席すらできない児童が増加していることも看過できない課題である。これらを受けて、今年度の研究テーマとサブテーマは「**主体的・対話的に学び合い、自己を見つめる子の育成 ～生徒指導の三機能を意識した集団作り～**」と設定する。この研究で教育活動全体を通じて、児童一人一人に自己決定の場を与え、自己存在感を実感する場を作り、共感的な人間関係の中でかかわり合う集団を築くことでより多くの児童が主体的に活動できるようになるものと考え。授業の場においては、教師がさまざまな手立てを打ち、主体的・対話的な学びの場を提示することで、全ての児童に学ぶ楽しさや、成長の喜びを実感させていく。さらに、全職員で積極的に生徒指導に取り組むことで、児童に集団や社会の一員として相手意識を持って行動できる心を育み、さらによりよい方向に成長させたい。これらに加えて職場の世代交代が社会問題になっているが、本校でも、経験年数の少ない若手教員の割合がとて高くなっている。若手教員のパワーが学校を活性化させる一方で、教師としての学習指導や生徒指導のスキル向上が早急に求められている。この研究を契機に組織で支える校内体制を確立し、児童にとっても、教師にとってもやっあってよかったと思える研究になることを願っている。

4. 生徒指導とは

生徒指導の研究を行うに当たって、生徒指導の位置づけを確認するために学習指導要領総則の一部を抜粋する。

「生徒指導は学校の教育目標を達成するために重要な機能の一つであり、一人一人の児童の人格を尊重し、個性の尊重を図りながら社会的資質や行動力を高めるように指導、援助するものである。すなわち、生徒指導は全ての児童のそれぞれの人格のよりよき発達を目指すとともに、学校生活が全ての児童にとって有意義で興味深く、充実したものになるようにすることを目指すものであり、単なる児童の問題行動への対応という消極的な面だけにとどまるものではない。学校教育において、生徒指導は学習指導と並んで重要な意義を持つものであり、また、両者は相互に深く関わっている。各学校においては、生徒指導が、一人

一人の児童の健全な成長を促し、児童自ら現在及び将来における自己実現を図っていくための自己指導能力の育成を目指すという生徒指導の積極的な意義を踏まえ、学校の教育活動全体を通じ、学習指導と関連付けながら、その一層の充実を図っていくことが必要である。」(1)

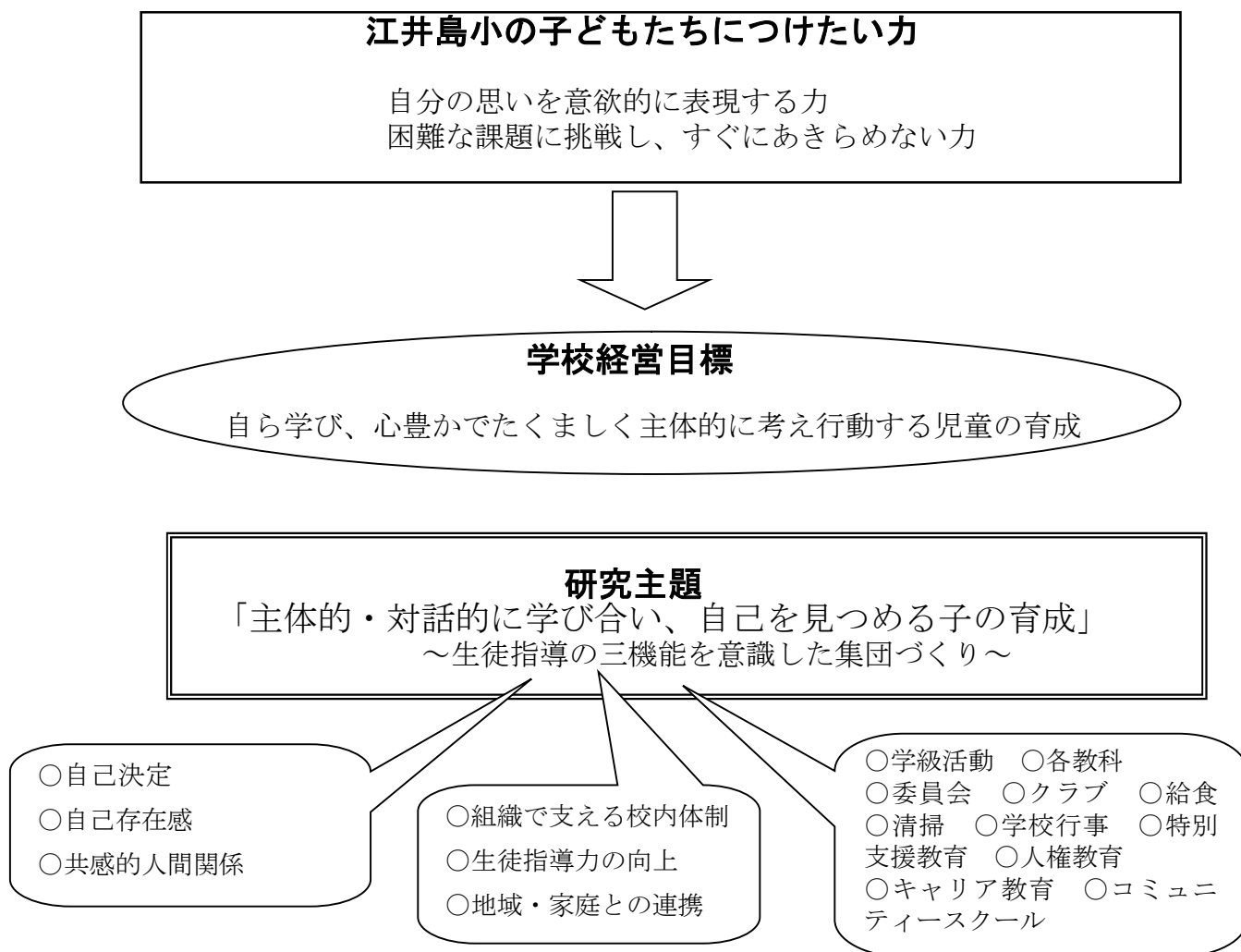
「学校生活は集団での活動や生活を基本とするものであり、学級や学校での児童相互の人間関係の在り方は、児童の健全な成長と深く関わっている。児童一人一人が自己の存在感を実感しながら共感的な人間関係を育み、自己決定の場を豊かに持ち、自己実現を図っていける望ましい集団の実現は極めて重要である。」(2)

〈参考文献〉

(1) 小学校学習指導要領（平成29年告示）解説総則編P99

(2) 小学校学習指導要領（平成29年告示）解説総則編P100より

5. 研究主題と今年度の重点研究内容



6. 授業者が配慮すべき事項

整備	学習環境	<ul style="list-style-type: none"> ◎前の黒板のまわりなど、視野に入る部分はすっきりしておく。 ○授業の前には黒板をきれいにする。 ○教室の整理整頓、不要な物はおかない、ごみを拾う。 ○机の列を整えさせる。 ◎授業で必要なものを準備して座らせる。
起		<ul style="list-style-type: none"> ◎挨拶をはっきり大きな声でさせる。(姿勢も注意する) ◎1時間の授業のめあてを示す。(強調する、復唱する) ○前時のふり返しをする。 ○本時の学習の流れを示し確認する。 ○児童が興味関心をもてるよう、わかりやすくイメージしやすい方法を考える。
承	指示・説明	<ul style="list-style-type: none"> ◎話や作業を止め、全員を注目させてから指示や説明をする。 ○一指示、一動作、一確認 (多くの指示と言いかえをしない) ○はっきりと早口にならずに言う。 ○全体に指示を出した後、個別指導が必要な児童に支援を行う。 ○実物やモデルを示す。図や資料、児童の生活にかかわった事例で説明する。
	視点	<ul style="list-style-type: none"> ○活動の視点(何をどこまでする。終わったらどうする)を明確にし、児童に確認する。
	時間	<ul style="list-style-type: none"> ○学習の進度は時間配分に配慮し、速すぎないようにする。 ○思考させる時間の確保とその方法を工夫する。 (読む、調べる、作業する、交流する、発表する等)
転	学習活動	<ul style="list-style-type: none"> ○指導者がしゃべりすぎない。 ○学習を細かいステップに分けて指導する。 ◎学習内容に応じた学習形態を工夫する。 (一人、ペア、グループ クラス) ◎「発表の仕方、聞き方のモデル」を提示する。 ◎話し手を見て最後まで聞くように指導する。 (安心して発言できる場づくり)
	評価	<ul style="list-style-type: none"> ○児童の言動を肯定的に評価する。 ◎児童の発言をつないで深める。 ○発言したことで自己有用感をもてるようにする。
	板書	<ul style="list-style-type: none"> ○構造的板書を工夫する。 ○ノートをとる時間を確保する。 ○色チョークを工夫する。 ○どこからでも見えるように字の大きさを配慮する。
結		<ul style="list-style-type: none"> ○本時の学習内容をふり返る場を確保する。 ◎家庭学習の具体的な指示をする。 (挨拶が終わって解散まで姿勢を崩さない。)

7. 生徒指導の3機能を生かした授業評価表

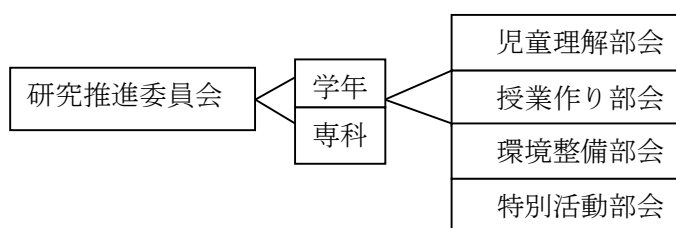
生徒指導の三機能	日常の授業に生徒指導の三機能を生かす手立て
自己決定の場を与える	○何をどのようにして考え、どのようにまとめたらよいかなど考える視点や方法をわかりやすく説明している。
	○自分で気付いたことや考えたことをノートに書かせるなど、発表や意見交流の前に一人で調べたり、考えたりする時間を確保している。
〈児童の姿〉 課題解決に向けて自ら進んで活動し、思考・判断した過程や結果を自分の言葉で表現できる。	○自分の考えをみんなの前で発表する場を設定している。
	○思考過程や課題解決の過程が分かるように、ノートやワークシートの書き方を工夫している。
	○学習のふり返りをさせ、なるほどと思ったところや、不思議だな、もう少し調べてみたいなど思ったところを明確にさせている。
	○対立意見を生むような発問の工夫を行っている。
自己存在感を与える	○児童の実態を把握し、授業のどの場面でどの児童を生かすことができるかを考えている。
	○役割分担させて、一人一人が課題の追究活動に参加するように促している。
〈児童の姿〉 課題解決の場で、自分の果たすべきことや役割を自覚し、友だちと話し合い、協力しながらそれを遂行できる。	○児童が協力して学習できるようにペア学習やグループ学習などを取り入れている。(学習形態の工夫)
	○グループで協力しなければ解決できない学習課題を設定している。(学習課題の工夫)
	○誤答などを肯定的に取り上げ、課題解決の方法を思考する上でみんなのためになったことを評価している。
	○一人一人に丸付けを行ったり、よいところを具体的に評価したりしながら、計画的に机間指導を行っている。(個に応じた指導)
共感的人間関係を与える	○児童の発表に対してうなずきやあいづちで答え、共感的に受け入れている。
	○よい姿や、がんばっている姿をほめ、好ましくない行為については正す事を心掛けている。
〈児童の姿〉 ありのままの自分を表現するとともに、互いの考えや意見を肯定的に認め合い、学び合うことができる。	○相互評価など、お互いの良さを認め合う活動を取り入れている。
	○友だちの発表に対しては、発表者の方を見て聴かせたり、拍手をしたりするような雰囲気づくりを行っている。
	○児童同士の発言をつなげ、集団での学び合いになるようにしている。
	○ペア学習やグループ学習で課題に向けて教え合いの場面を設定している。

8. 今後の研究について

①研究部会

- ・部会は研究発表会に向けて今後の学校全体の体制を整えていくための組織であり、授業研究を推進する組織とは別組織である。
- ・各学年教師は4つのグループに分かれて入る。専科の教師と特別支援学級担任（専科グループ）の教師も4つの部会に分かれて入る。
- ・各部会単位で研究の推進をするが、部会員は各学年及び専科グループにその進捗状況等を伝え、情報の共有を図る。

※2020年度の研究発表会に向けて全職員が生徒指導を意識した授業について共通理解を図り、広く深く考える機会を持つ。



	1年	2年	3年	4年	5年	6年	専科
児童理解部	大月	北山	山口	加藤	穴田	神谷	宮瀧・高田 宮田
授業作り部	三好	丸山	箕作	青木	岩間	金海	山本・小西
環境整備部	若森 越山	中村	坂東	瓜生	木村 茅寫	濱田	米谷・櫻井豊
特別活動部	上野	吉田	櫻井与	櫻井文	中井	東・岩	西川

※太字は研究推進委員会メンバー

②授業研究推進の組織

- ・授業研究を推進するための基本となる組織は、各学年及び特別支援学級担任とする。
- ・専科の教師（音楽、図工、栄養教諭、養護教諭）は可能な限り、偏りのないように各学年または特別支援学級担任グループに入り、事前研究会、事後研究会等の授業研究を推進する。

1年	2年	3年	4年	5年	6年	特別支援学級
上野	中村	坂東	青木	穴田	神谷	米谷
若森	北山	箕作	瓜生	岩間	濱田	西川
三好	吉田	櫻井与	桜井	中井	金海	小西
大月	丸山	山口	加藤	木村	東	櫻井豊
越山	山本	宮瀧	宮田	茅畷	岩	
				高田		

③研究授業

〈全校公開授業〉

- ・時期・・・2019年度の3学期末まで
- ・回数・・・3回（低・中・高）
- ・指導案・・・3週間前までに全体で事前研究会を持ち、完成した指導案を2週間前に講師に送る。公開授業1週間前までに配布する。

〈その他の公開授業〉

- ・時期・・・2019年度2学期以降
- ・回数・・・1人1回は指導案を書いて授業を行う。
- ・参観・・・学年の授業は学年全員が参観する。学年以外の授業も自由に参観できる。
- ・指導案・・・公開授業の3日前までに配布する。

④学習指導案の形式

- ・別に提案する

⑤研究の計画

2019年度

- 1学期・・・生徒指導の研究に関する全体研修会を実施する。
2学期以降の研究に関する計画を立案する。
- 2学期・・・公開授業を実施する。(～3学期末まで)
- 3学期・・・これまでの取り組みの分析①。
研究の方向修正①

2020年度

- 1学期・・・2019年度の方向修正①を受けてさらに研究を継続していく。
7月末にこれまでの取り組みの分析②
研究の方向修正②
- 夏休み・・・研究紀要作成
指導案検討
- 12月・・・研究発表会

⑥取り組み案

- ・6月30日までに全員が作成し、シェアに入れる。
- ・現段階で考えている三機能を意識した学級目標、1年間の取り組み案の生活指導、教科指導の部分を書く。
- ・少しずつ生徒指導の三機能を意識した内容に更新していく。
- ・専科の先生は教科指導の部分のみ書く。
- ・31年シェア→校務分掌→教育事務→研究→2019 取り組み案

令和元年 8 月 22 日 (木)

今後の校内研究推進の予定

<夏休み>

7 月 30 日 (火) PM 校内研修の後、学年授業研究メンバーで話し合い、
大の授業者候補決定 (～ 20 分間)

↓

学年層で相談し、今年度の 3 人の授業者決定

8 月 1 日 (木) AM 兵庫教育大学 松本先生にご挨拶

8 月 19 日 (月) PM 研推

- ・ 学習指導案の体裁について
- ・ 今後の研究について
- ・ 部会の進め方について

8 月 22 日 (木) AM 校内研究会

- ・ 兵教大松本先生より研修
「三機能を生かした具体的な授業作りについて」(仮題)
- ・ 今年度の学習指導案の体裁について

<2 学期>

9 月 6 日 (金) 研推

9 月 18 日 (水) 部会での話し合い→研推

10 月 2 日 (水) 部会での話し合いを→研推

10 月 23 日 (水) 全校公開授業①事前研究会

11 月 13 日 (水) 研推

11 月 14 日 (水) 全校公開授業①

理科 3 年・箕作学級

公開授業①

11月20日(水)・・・・・・・・研推

12月4日(水)・・・・・・・・研推

12月18日(水)・・・・・・・・全校公開授業②事前研究会

<3学期>

1月8日(水)・・・・・・・・研推

1月29日(水)・・・・・・・・全校公開授業②
体育 6年・濱田学級

1月22日(水)・・・・・・・・全校公開授業③事前研究会

2月5日(水)・・・・・・・・研推

2月26日(水)・・・・・・・・全校公開授業③
道徳 1年・三好学級

3月4日(水)・・・・・・・・研究推進委員会「今年度の研究の考察」

3月18日(水)・・・・・・・・校内研究会 「今年度のまとめ」

